

水源環境保全・再生市民事業支援補助金 平成21年度補助事業を募集します!!

平成21年度補助対象事業を募集しますので、水源環境の保全・再生に取り組んでいる市民団体の皆様、また取り組もうと準備している皆様、是非ご応募ください。

●募集期間 平成21年1月5日（月）～平成21年1月30日（金）

●対象要件

- ・5人以上の団体が相模川・酒匂川流域などの水源環境保全地域で実施する事業
- ・団体はNPO法人でなくても対象になります。（但し、企業が主体の場合は、活動内容が非営利活動であっても対象外です。）
- ・団体は規約等があり、団体活動に係る会計処理や情報公開が明確化されている団体である必要があります。
- ・神奈川県からの補助金等を受けていない、又は神奈川県が構成員となっていない団体であること など

●対象経費

事業の実施に直接的に必要となる経費（参加者の交通費や弁当代も対象となります。）

●補助率及び補助上限額

①特別対象事業区分

- | | | |
|------------------------------------|------------|--------|
| ・森林の保全・再生事業
(整備面積により上限額は異なります。) | 補助率10/10以内 | 上限50万円 |
| ・森林の保全・再生以外の事業 | 補助率10/10以内 | 上限50万円 |
| ・上記の事業に係る資機材等の購入 | 補助率10/10以内 | 上限50万円 |

②普及啓発・教育事業区分 補助率1/2以内 上限20万円

③調査研究事業区分 補助率1/2以内 上限50万円

※募集の詳しい情報や申請等については、県のホームページ、又は県政情報コーナーに配架されている募集案内等をご覧ください。

平成20年度補助事業 事業報告会を実施します!!

今年度の補助事業の取組内容について、市民団体の方々がプレゼンテーションによる報告を行います。どなたでも参加することができますので、水源環境の保全・再生の取組に関心がある、又は活動を行っている方は是非ご参加ください。（先着300名迄）

●開催日時 平成21年3月8日（日） 9時～

●会場 県央地域県政総合センター 分庁舎 講堂

（当日は、平成21年度補助事業選考に係る公開プレゼンテーションも兼ねて実施されます。）



発行・編集 水源環境保全・再生かながわ県民会議

問い合わせ 神奈川県政策部土地水資源対策課計画調整班

横浜市中区日本大通1 TEL(045)210-3106(直通)

URL(施策全般): <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/01/0104/suigenkankyo/index.htm>

URL(市民事業): <http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/01/0104/suigenkankyo/join/siminjigyoku/index.htm>

水源環境の保全に取り組む市民活動を応援しています!

市民事業等支援制度がスタートしました

水源環境を守るために

～税負担による参加とともに、水源環境保全活動への参加を

市民事業等審査専門委員会委員長 沼尾波子（日本大学）

次のページで活動している団体や取組を紹介しているよ。

平成19年度に創設された水源環境保全税により、納税者1人当たり年間約950円、総額で約38億円が集められ、水源地域の環境保全への取組が始まっています。その中で、県が直接事業を行うだけではなく、市民の取り組みに対して財政支援を行うことが施策の1つとして掲げられ、平成20年度には、900万円の予算が計上されました。これを使ってどのような支援を行うか。水源環境保全・再生かながわ県民会議では、市民事業等審査専門委員会を立ち上げ、市民事業支援の方法や対象について検討を進めてきました。



市民団体による森林整備の様子

支援の対象・方法

水源環境保全に関する活動団体にアンケートや聞き取り調査を行い、また県民会議での検討を重ねた結果、次ページで紹介する4つの項目に対して財政支援を行うこととなりました。さらに議論を通じて、森林整備やその周辺事業については事業費の100%を補助することや、チェーンソーなどの資機材についても補助金による購入を認めること、普及啓発・教育や調査研究事業については対象地域を県外上流域まで拡大することなどが提起され、県により制度化されています。

支援事業の開始

平成20年度の支援事業には、32団体65事業の応募があり、選考会による審査を経て、20団体36事業への補助が決定、これらの事業が各地で進められています。県民の大切な税を使っての支援事業でもあり、補助金の適正な執行は勿論のこと、この制度を通じて各地で水源環境保全に向けた取り組みの輪が広がっていくことが期待されます。今年度の成果は3月に行われる事業報告会で発表されます。



2次選考会(プレゼンテーション)

支援制度のこれから



川の自然観察会

平成20年度は、限られた予算の中での交付団体決定だったことから、残念ながら多くの団体が選考から漏れてしまいました。団体独自の取り組みに期待しつつも、県民会議では、取組拡大のための予算拡充を提言しました。また、技術指導や情報提供など、財政以外の面で市民事業を支援する方法についても検討しました。県内各地で活動する団体への情報提供や技術指導、団体相互のネットワーク構築について問題提起を行ったところです。

税の負担を通じた参加とともに、森林整備やその他の活動にも是非ご参加下さい。

平成20年度補助団体をご紹介します

県央・県北地域 9団体

- ①河川生物研究クラブ
(普及、10.7万円、相模原市)
- ③NPO法人 北丹沢山岳センター
(特以、50万円、相模原市)
- ④樹里クラブ
(特森・普及、50万円、相模原市)
- ⑥七沢里山づくりの会
(特森・普及、70.5万円、厚木市)
- ⑦NPO法人 自遊クラブ
(特森・普及、57.3万円、相模原市)
- ⑪海老名里山づくりボランティア山仕事の会
(特森、40万円、海老名市)
- ⑫日本の竹ファンクラブ
(特森、100万円、愛川町など)
- ⑮Eco Friend College
(調査、6万円、相模原市)
- ⑳NPO法人 篠原の里
(特森、27.6万円、相模原市)

横浜・川崎地域 1団体

- ⑭ナウシカの会
(普及、11.2万円、横浜市)

県西地域 7団体

- ⑤山北町の環境を考える会
(特森、30万円、山北町)
- ⑨NPO法人 神奈川ウォーターネットワーク
(調査、20万円、山北町)
- ⑩共和地域振興会
(特森、80万円、山北町)
- ⑫NPO法人 丹沢森の仲間たち
(普及、9万円、山北町)
- ⑬丹沢森林環境研究所
(調査、10.2万円、山北町)
- ⑮NPO法人 しのくぼ
(特森・普及、100万円、大井町)
- ⑲酒匂川探水隊
(調査、20.4万円、南足柄市など)

県南地域 3団体

- ②NPO法人 みろく山の会
(特以、50万円、秦野市)
- ⑧NPO法人 ファームパーク湘南
(特森、40万円、伊勢原市)
- ⑰NPO法人 伊勢原森林里山研究会
(特森・特以、110万円、伊勢原市)

()内は、(事業内容、交付決定額、主な活動地域)です。



こんな活動が取り組まれています!

特森 特別対策事業 (森林の保全・再生事業)

地域の私有林などで、日の光が森林全体に行き渡るよう、余分な枝を落とす枝打作業や、密集した木々を間引く間伐作業、また樹木の苗を植える植樹作業などの森林整備活動に取り組んでいます。



(森林の保全・再生事業)

特以 特別対策事業 (森林の保全・再生以外の事業)

水切りやウッドチップ設置などの登山道整備 (土壌流失防止対策) などによる丹沢大山の保全・再生活動に取り組むほか、森林資材の有効利用のために、間伐材を森林から搬出する活動に取り組んでいます。



(森林の保全・再生以外の事業)

普及 普及啓発・教育事業

簡易な森林作業を含めた講習会、間伐材グッズのご紹介、炭焼きやシイタケのホダ木づくりなどの野外体験を通じて、子どもたちや都市住民等へ水源環境の保全・再生の必要性について、普及しています。



(普及啓発・教育事業)

調査 調査・研究事業

川に入って水質調査を行ったり、県の研究機関と連携して、水源地域周辺に降る雨水に含まれた成分を調査したり、ヤマメなどの水生生物と河川の水質の関係について調査しています。



(調査・研究事業)

※各団体の詳しい事業内容は、県のホームページに掲載しています。
ホームページをご覧になる方は次のキーワードで検索してください。

水源 市民事業

選考会委員からのコメント

選考会を通しての感想と期待

増田 清美 選考会委員 (県政モニターOB 幹事)

書類選考を経て公開プレゼンテーションに挑む市民団体の方々に、取り組む事業に対しての意気込みを述べて頂いた。時間の制約がある中で、全てを伝えるのが難しいところもありますが、皆さんの事業に対する熱い思いは確実に伝わっています。

この市民事業支援をステップとして、皆さんが取り組む事業の推進と市民団体の裾野が広がることで、水源環境の保全に強い味方になることと思います。

異なる「現場」の意識共有

福江 裕幸 選考会委員 (神奈川新聞社 論説主幹)

よく聞くのは「実際に現場を見て感じて」という注文です。もっともですが、思うに任せずにいます。「審査」と名の付く委員会にいて耳の痛いことです。けれども超過課税を受ける県民も同様ではないかと思ひ当たります。水源環境保全の現場に赴くことのない多くの人に、その恵みを守る取り組みを知って納得してもらうにはどうすればいいか。逆に都会暮らしの人々の現場に私たちがどう分け入っていけるのかの問題でもあると思います。